

アグリ筑西

2019 11月号

朝晩の冷え込みに、冬が近づいていることを感じます。昼夜の寒暖の差が激しいので、お体にお気をつけください。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター) 発行
Tel : 0296(24)9206 Fax : 0296(24)6979



筑西地域農業改良普及センターHPへアクセス! →

下妻の梨 アメリカに初輸出

これまでベトナムを中心に梨の輸出を行ってきた下妻市果樹組合連合会では、今回初めてアメリカ(ロサンゼルス)に梨を約7トン輸出しました。

アメリカへの輸出は、ベトナムやタイとは違い検疫条件が厳しく、輸出する圃場のすべての果実に袋掛けが必須となります。通常、幸水や豊水は無袋栽培であるため、これらの品種にも袋掛けを行う必要がありました。袋掛けにより果実肥大や着色ぐあいの様子も確認することができなくなったため、栽培の上では多くの苦勞を伴いましたが、8月16日にアメリカ輸出向けの幸水を出荷するにいたりしました。

果実は船便でアメリカまで輸送され、途中検疫等もあり約1ヶ月後の9月20日頃から現地のスーパーで販売されました。日本産の甘くて瑞々しい幸水は、現地での評価も高く、ライバルとなる韓国産の約2倍の価格(1キロあたり約千円)でも完売しました。今年はこの他にも豊水、新高を輸出しており、10月中には店頭に並ぶ予定です。



アメリカ量販店に並ぶ下妻の梨

筑西地域農業青年リーダー研修会を開催

10月10日、管内農業後継者クラブ員等12名が、幕張メッセで開催された農業Week2019を見学しました。

農業Week2019は農業分野の約680社が、「スマート農業や植物工場など最新の農業技術」、「農業資材」、「加工・販売するための機器」、「養豚・養鶏・養牛に関する資材・設備」などを展示しています。

当日は4時間ほどかけて、ドローン、環境制御設備、イチゴ移動栽培装置、空調服など、自身の興味のあるブースを自由に見学しました。出展者に熱心に質問するクラブ員が多く見られ、積極的に情報を得ようとする姿勢がうかがえました。

クラブ員からは、「新しすぎて今は現実的でなくても、今後導入できそうな物も多い。特にICTの活用は身近になってきていると実感した。」「会場で農業者とも話ができて、刺激を受けた。」といった感想が聞かれ、有意義な研修となりました。



見学するクラブ員

JA北つくば花き部会が栽培管理講習会を開催

10月10日、コギクの親株管理開始前にJA北つくば営農経済センターにおいて、花き部会が栽培管理講習会を開催し、部会員約25名が参加しました。

最初に部会長より、「新規生産者を部会員の皆さんで育てていきましょう」と、力強いあいさつがありました。続いて、当部門から、親株から収穫まで管理のポイント、品種ごとの栽培管理と開花時期、センチュウ対抗植物の試験圃場等の調査結果について説明を行いました。また、JA担当者より台風前後の栽培管理についての説明がありました。

当部門では、関係機関と連携して、花き農家の支援を行っていきます。

ネギの病害虫防除～ネギハモグリバエ、さび病～

秋冬ネギの収穫期となりました。収穫間際に発生しないよう、主要病害虫の防除方法を記載します。ネギハモグリバエについては、従来よりも食害量が多い別系統が発生しているのに注意しましょう。

○ネギハモグリバエ

【発生】春から秋までに年間5～6回発生する。乾燥条件で発生量が多くなる傾向がある。

【症状】成虫は葉の組織内に点々と産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜入して葉肉を食害するため、食害痕は白いすじ状となる。

【防除のポイント】

1. 多発生状態での薬剤防除の効果は低いので、発生初期の防除を徹底する。
2. 定植時や土寄せ時に粒剤を処理すると効率的に防除を行うことができる。



ネギハモグリバエによる葉の被害

○さび病

【発生】春期と秋期の、比較的低温で（発生適温15～20℃）、降雨が多い場合に発生しやすい。

【症状】主に葉身に発生する。はじめ、紡錘形～楕円形でオレンジ色の少し盛り上がった斑点を生じる。病斑はやがて表面が縦に破れ、内部からオレンジ色の粉状の胞子（夏胞子）が飛散する。激発すると、葉身全体に多数の病斑を生じ、古い葉から枯死する。

【防除のポイント】

1. 多発生状態での薬剤防除の効果は低いので、発病初期の防除を徹底する。
2. 肥料不足や過多になると発病しやすいため、生育状況に合わせて適切な肥培管理を行う。
3. 伝染源となる被害茎葉、株などは圃場外へ運び出し速やかに処分する。



さび病による葉の被害

写真は「茨城県病害虫防除所のHP」より

普及員のひとりごと ～西村撰～

4月につくば地域農業改良普及センターから異動してきました。普通作担当ですが、麦やソバの作付面積が多い地域に赴任するのは初めてです。春は青麦の鮮やかな緑に癒され、秋に入ってから満開のソバ畑を眺めるたびにソバが食べたくなり、日々季節感を楽しんでおります。まだまだ勉強しなければいけないことも多いですが、精進してまいりますのでよろしくお願い致します。

編集後記 安藤

リーダー研修に同行しました。農業weekは初めて行きましたが、最新技術などの情報が得られ、非常に刺激を受けました。